



日程は、なんと98クラブ、今年はございます。50パと言う日程でございます。毎週月曜日になりますと5クラブの資料を持ちまして、一週間の所帯道具を抱えまして、夜逃げみたいな形で毎週出て参ります。それに加え、今年の夏は大変暑うございまして、高田クラブに伺ったときは38.5℃っていう凄い暑さでございました。これは熱烈歓迎と言うんでございますけれど、大変な歓迎を受けました。

こちらのクラブは先程、ちょっとお顔を少し拝見致しました。梨本さんには昔、大変お教えを頂いております。私の代りにここで喋って頂いてもいい様な方でございますけど、24年間通算で100%だそうでございますけど、私は昔、低空飛行でしたので、大変敬意を表する方でございます。中条さんも36年間、前のクラブと通算して100%と言うことで、大変敬意を表する次第でございます。

こちらは10年目と言う間隔は全くしませんで、伝統を永く持っておられる様なクラブの感じが致します。

こちらの会長さんからもお話は出てると思いますが、ラビッツァの人と成りと、物の考え方をちょっと喋らせて頂きたいと思っております。

ラビッツァはイタリアのミラノの方で建築デザインと言う職種。イタリアの方はオープンで開放的で陽気と言うイメージがあったのですが、なかなかアグレッシブで改革家、大変厳しい方でございました。ラヴィツァの考え方は基本的に2つございまして、その1つは今年が丁度、20世紀最後にあたりますけれども、来年は21世紀に入るわけでございます。ご案内の様に1905年にロータリーができました。2005年は丁度100周年になるわけでございますが、そういうことを含めて、今まで100年間色々やってきた中で21世紀に向かって、改めていくべきことは改めていくべきだと。そして21世紀にこれからの明るいロータリーをつくっていくべきだと言うのが一つの主張でございます。

要するに20世紀から21世紀の架け橋になる年だと。その機能を十分に果たすべき年だと言うのが一つと、もう一つはご案内の通り、会員の減少だと。

今、世界のロータリアンが約120万人いますが、1%、約1万2千人減っていると言うことでございます。第二次世界大戦を除いては初めての減少で、大変な危機感を持っているわけでございます。

日本そして、東南アジアが、経済的な問題が大きな爆弾になってございます。アメリカは大変良い経済状態なわけです。ロータリアンは会費をポケットマネーで出すと言うことが基本であります。景気が良くてポケットマネーは十分出せるはずなのですが、アメリカの会員も減っていると言う事です。どうもこの辺は納得いかないんじゃないかと。

ほかのクラブを見ましても、アメリカのJCが約40%減っているそうでございます。そしてアメリカのライオンズが約13%減っている様でございます。

これはどう言うことかと申しますと、どうもクラブ離れを起こしているものではないかと思えます。つまり週1で、お顔を拝見しながらコミュニケーションをとることが必要無くなって来ている時代になってきているのではないかということなのであります。

その一番の原因はインターネットの普及と言う事でございます。世界の中の1億5千万人がインターネットを利用しているそうでございます。その中で米国の利用者は約半分7,500万人・4人に一人が利用しているそうでございます。日本でも1,700万人の利用者があると言うことでござい

す。先月は2,000万人。半年の間に300万人増えていますから、こういう状態で日本でも会員のクラブ離れが起きうると思います。

全体的にクラブ離れをくい止めて、会員の上昇と退会のマイナスの二つの両方を考えて、それが組織をキチンとしていく、運営の活動の根源である。と言うことがラヴィツィアの主張でございます。

この二つを基本に組み立てましたのがターゲットになるわけでございます。

ターゲットでございますが、簡単に申しますと堅実と信望と持続であります。ロータリーの中では堅実さを、外では持続と言うことをやっていたいかなければならん。そのことが内外ともに信望を得る、と言うのが主張だと。

で、この堅実と言うのはどういうことかと申しますと、100年に近づくロータリーの歴史の中で、だんだん堅実さの割合が少なくなっているんじゃないかと言うことで、堅実さが欠けている。

その中で良く分かりやすい一つの例だけ、申し上げます。

世界に今29,100ばかりのロータリーがあるわけでございますが、その内の400クラブが9名以下のメンバーだということで、後で加えますと、どうもその内の半分以下が5名以下だそうでございます。と言うことを見直していこうということでございます。

で、見直しに必要な改革は、個人でも、クラブでも出せますので、どしどし出してもらいたい。と。改めてもらいたいんだと。それが、堅実な運営につながるんだと。言うことで、堅実と改革とは相反する様なのでございますが、意味としてはそう言うことでございます。

改革をするときに国際協議会の時にラヴィツィアがこういうスピーチをしたわけですが、地区協議会は地区の役員の研修会であります。私どもの時やりました時は、富山さんのガバナーのみで中身は私。主催者は富山さんの形でやったわけですが、国際協議会も当時主観者の会長レーシーさんと、ラビツィアさんはエレクトですから、必ずラビツィアさんが喋るときはレーシーさんは必ず隣に座っているわけですよ。その中でこういう言い方をするんですよ。「草の根ロータリアン」と。RAと役員との大変な隔りが起きています。ここのところを改めていかなければならないと言うことを、堅実な運営の中でスピーチをするわけですが、現職の会長さんのレーシーさんが居る所でこういうことを言うわけですから、思わずレーシーさんの顔を見なくなったわけです。

持続と言うのはどんな事かと申しますと、ロータリーは基本的には一年間で交替しますが、輪番性と言うものもございます。一番大きな眼目と申しますと、次々にロータリーの指導者を作っていくと言う一つの機能がございます。

今の社会奉仕のニーズと申しました方が良いと思いますが、そういうニーズは短期間のものじゃない。長期的なプロジェクトには今、要求される時代だと。中で一年一年って言って置きながらも、外に向かって一年一年こま切れで良いのだろうか？と言うのがラヴィツィアの主張でございます。

ロータリーはつまり個人の奉仕が基本だと。私もそう思っております。彼はこういう言い方をされたわけです。「私から彼等に」「エゴからチームワークに」。

アメリカに向かった時に、全34人の日本のガバナーがラヴィツィアさんは凄いことを言うな・ロータリーの基本的スタンスを変えるっていう話じゃないか、とびっくりしました。

後で話を聞くと、基本的な姿勢を改めると言う話ではございませんで、例えばこちらの会長さんとIだけではなくてWeでやる、そういう意味でございました。

今年日本をカバーする4つある内の2つのゾーンからあらゆる理事一人ずつ出るわけでございま